

【北海道鷹栖町】 校務DX計画

1人1台端末導入後、授業支援ソフトや学習eポータル等を活用し、教育のデジタル化を進めてきた。

学校においては、統合型校務支援システムの導入のほか、教職員間のグループウェアやクラウドサービスを活用し、伝達事項や各種資料及び教材をデジタル化して蓄積・共有している。

今後、更に校務DXを推進するために「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、具体的な取組みを次のとおり推進する。

1. 校務系及び学習系ネットワークの統合

現在、教育ネットワークを児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」、児童生徒が教育活動で利用する「学習系」の2つに分離し、インターネット経由から児童生徒の個人情報等にアクセスできない構成としている。そのため、校務用と学習用それぞれ端末を用意し、校務用端末は持ち出しを禁止している。今後、教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、1台の教職員用端末で2つのネットワーク（校務系及び学習系）を切り替えて利用できるようゼロトラストセキュリティの考え方にに基づき適切にセキュリティを確保しつつ、校務系・学習系ネットワークの統合について調査研究を進める。

2. 校務支援システムのクラウド化

現在、校務支援システムについては、オンプレミス（校内に備え付けのサーバ）で運用しており、教務・保健・学籍・成績管理など様々な校務で利用している。

今後、校務に関する情報と学習履歴や記録等の学習系データを有効につなげることで学びを可視化し、学校教育の質向上を目指す次世代の校務デジタル化に向け、校務系ネットワークシステムの現状分析や望ましい校務の在り方に関する検討を行い、パブリッククラウド上での運用を前提とした校務支援システムの早期クラウド化を目指す。

3. 次世代の校務デジタル化に向けた各種ツールの活用

上記2と合わせて、校務の効率化や授業の質の改善を図るため、児童生徒の成績情報等の校務系データ、授業支援ソフトやデジタルドリルで蓄積された学習系データ、MEXCBTなどの教育行政データなど、様々な教育データを自動的に収集・分析し、可視化するための管理ツールの導入について、検討を進める。

また、現状において、教職員のICT活用能力に個人差があり、授業等において上手く活用できていないケースが散見されることから、全ての教職員が効果的に活用できるよう、教職員一人ひとりのICT活用能力に応じた指導や研修会等を積極的に実施していく。

4. FAX・押印の原則廃止

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、一部で保護者や外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されている。このことから、災害や教育ネットワークの不具合時などFAXの方が電子メール等より効率的な場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、教育委員会及び学校から各種関係機関、事業者に対して、慣行の見直しについて継続的に働きかけを行う。